

別記様式（第3条関係）

事務事業評価調査書（26年度）

No.	15		作成日	平成26年10月3日	
総合計画	章	1	住みよいまちづくり	年度	平成25年度
	項	4	まちの将来を担う人づくり	課等名及び係名	学校教育課学校教育係
	節	1	豊かな人間性を育む学校教育の充実	記入者職氏名	主任 樋田 敦

【事務事業の概要】

I 事務事業の内容

実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
事務事業名	特別支援教育支援員配置事業			
事業概要	対象	特別支援教育支援員		
	目的	教育上特別の支援が必要であると判断された児童生徒に対し、日常生活動作の介助、学習活動上の支援を行うために配置する。		
	実施内容	町内小中学校に週28時間以内×42週配置して支援を行う。		

II 予算区分及び過疎計画における区分

予算区分	会計名	一般会計		過疎計画	施策区分	
	款	09	教育費			
	項	01	教育総務費		事業名 (施策名)	
	目	01	教育委員会費			
	事業名	特別支援教育支援員			根拠法令	大子町特別支援教育支援員設置要綱

【事務事業の実施状況】

III 事業費の推移及び終期

事業期間	開始	終了				
	平成19年度					
年度	事業費（決算・予算）	財源内訳（単位：千円）				
		国支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
22年度実績	9,545					9,545
23年度実績	12,887					12,887
24年度実績	14,492					14,492
25年度実績	12,383					12,383
26年度当初	13,420					13,420

特定財源の種類 25年度分	国支出金		県支出金		その他	
	名称	補助率	名称	補助率	名称	補助率

IV 執行状況

執行状況	推進中	完了	新規
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
状況説明	大子町立小中学校に在籍する、心身に障がいを持つ児童生徒は、原則として特別支援学級へ入級し、障がいの程度に応じた特別な教育課程を編成して義務教育を行っている。児童生徒の障がいの程度は個人差が有り、個別に指導対応を要するケースが多いため、町独自の施策として特別支援教育支援員を雇用して、一人一人の児童生徒へ学習支援を行っている。		

V 問題点の概要

問題点	児童生徒の障がいは個人差が有り、個に応じてきめの細かい教育を実施出来る支援体制が求められる。
-----	--

VI 成果指標

成果指標名	単位	25年度		26年度		27年度		28年度		対28年度 目標達成率
		実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	
特別支援教育支援員数	人	11	11		11		11		11	100.0%
指標に表われない効果	事業の成果は、自立して文化国家を支える社会人を育成することであり、義務教育課程の数値で推し量れるものでない。									

【事務事業の評価】

◎一次評価（担当課においての評価）

I 評価基準ごとの評価

	評価基準	評価	評価理由
目的妥当性	○目的が総合計画や国の計画の政策体系に結びついているか。 ○対象・意図を見直す余地はあるか。 ○町が実施又は関与すべき目的であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 妥当でない	第5次総合計画に基づく事業であり、障がいを持つ児童生徒の義務教育を支える重要な事業である。
有効性	○成果向上の余地があるか。 ○同じ目的を持つ他の事務事業があるか。 ○目的が達成されたか。	<input checked="" type="checkbox"/> 有効である <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 有効でない	類似する他の事業はない。
効率性	○成果を低下させずにコストを削減することは可能か。 ○コストを圧迫している、又は増大させている要因はあるか。 ○他の事務事業との統合は可能か。	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 効率的でない	必要最小限の勤務時間としている。
公平性	○サービスの受益者が一部に偏っていないか。 ○負担者（納税者）の理解は得られているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平である <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> 公平でない	「V問題点の概要」とおり、必要とする児童生徒へ公平に配置できないときもある。

II 総合評価

今後の方向性	2
※今後の方向性について、次の項目から選択してください。	
1 継続（事業規模を拡充する）	5 他事業と統合する
2 継続（現行どおり）	6 休止又は廃止
3 継続（実施方法、実施主体等を変更する）	7 終了
4 見直し（実施規模を縮小する）	
【総合評価】※理由、具体策及び今後の課題等を記入してください。 学校での日常生活動作や学習活動を支援する人員の配置は、障がいをもつ児童生徒が義務教育課程を受ける上で重要な条件・要素となっており、今後も現行通り実施していきたい。	
【所属長意見】 障がいの程度により、県立特別支援学校への入学や、特別支援学級への入級または通常学級へ入級の上実施される支援形態があり、普通学校において役割を担う特別支援教育支援員の配置事業の実施は、今後も継続していく必要がある。	

◎二次評価（事務事業評価委員会による評価）

今後の方向性	2
※今後の方向性について、次の項目から選択してください。	
1 継続（事業規模を拡充する）	5 他事業と統合する
2 継続（現行どおり）	6 休止又は廃止
3 継続（実施方法、実施主体等を変更する）	7 終了
4 見直し（実施規模を縮小する）	
【具体的内容】	
一次評価のとおり、引き続き事業に取り組むこと。	
【備考】	